

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	郡山健康科学専門学校
設置者名	学校法人こおりやま東都学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.k-tohto.ac.jp/basic_information/
収支計算書又は損益計算書	https://www.k-tohto.ac.jp/basic_information/
財産目録	https://www.k-tohto.ac.jp/basic_information/
事業報告書	https://www.k-tohto.ac.jp/basic_information/
監事による監査報告（書）	https://www.k-tohto.ac.jp/basic_information/

2. 教育活動に係る情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		教育・社会福祉 専門課程	こども未来学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	単位時間／79 単位	単位時間 37/単位	単位時間 35/単位	単位時間 6/単位	単位時間 0/単位	単位時間 1/単位
			単位時間／79 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
66 人		37 人	0 人	6 人	9 人	15 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>2年課程の中で、社会人として必要な基礎教養科目を設置し、資格取得に必要な専門科目、本学科独自の専門科目を設置している。1年次では、主に座学を中心に基礎教養科目と、専門科目のうち基本となる科目を履修し、それを踏まえて臨地実習を実施している。2年次では、演習、実習を多く取り入れ、残りの専門科目と、本学科独自の専門科目を履修し、最終実習は学生個人に応じた施設種別で実習を行っている。社会から求められている保育の知識・技術・態度の習得と、学生の特性を活かした多様な場所で活躍できる保育士育成を目指している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>評価指標は定期試験、平常点(出欠席、レポート、受講態度等)である。点数によってA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)の4段階で評価をしている。2期制を導入しており、前後期それぞれ定期試験実施後、各科目の試験結果に平常点を加算して評点を算出し、学期ごとに評価をしている。単位認定は年度末の判定会議の議を経て認定している。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>進級の認定は、学年に定める履修すべき単位を全て修得し、かつ、年間の学費等を全て納入した者で、進級判定会議の議を経て認定する。</p> <p>卒業の認定は、学則に定める全単位修得を前提とし、卒業試験に合格し、卒業判定会議の議を経て認定する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>全入学生を対象に入学前学習を実施し、学修のフォローに努めている。また、入学後はスモールグループによる学修の支援やオフィスアワーを設け、学生が教員に対し、学業の相談がしやすい環境を整備している。クラス担任制を用いて一人一人に丁寧な支援を行うようにしている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
16人 (100%)	0人 (0 %)	16人 (100 %)	人 (0 %)
<p>（主な就職、業界等） 保育所（園）、認定こども園、児童館、障害者施設等の保育士国家資格を活かすことができる業界へ就職である。</p>			
<p>（就職指導内容） 卒業年次の4月にはハローワーク担当者による就活セミナーを、7月には同じくハローワークによるセミナーと本校主催の就職説明会（例年100施設程度の参加）を実施し、就職指導・支援している。また、就職相談室（ハローワークへ無料職業紹介所として届け出済）を設け、様々な情報を公開するとともに、必要に応じて随時、個別面談を行うことにより、個々の学生の意向に沿った就職支援を実施している。</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等）） 保育士国家資格、認定ベビーシッター、介護職員初任者研修等</p>			
<p>（備考）（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
30人	1人	3.3%
<p>（中途退学の主な理由） 体調不良</p>		
<p>（中退防止・中退者支援のための取組） 全学生を対象に、出席状況の確認を定期的に行い、休みがちな学生に対しては、個別面談を行いながら生活指導を行っている。その中でも、長期欠席者に関しては、学生及び保護者並びに教員2名による3者面談を実施し、理由を把握しながら、学生本人の意思を尊重し、保護者も同意したうえで休学を勧め、退学の防止を図っている。また、必要に応じて随時スクールソーシャルワーカーによるカウンセリングを行っている。さらに、本人からの希望があれば、転科等で退学の防止を図っている。</p>		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程	介護福祉学科	○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62 単位	単位時間 25 単位	単位時間 36 単位	単位時間 13 単位	単位時間 0 単位	単位時間 0 単位
			74 単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
66 人	53 人	16 人	5 人	7 人	12 人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 2年課程の中で、1年次の基礎科目で学習の進め方、介護を実施するために必要な柔軟性を養う。併せて人間と社会・こころとからだのしくみに関する領域を学び、臨地実習において統合させる力を養成する。臨地実習は効果的に配置し、段階的にそして反復学習することにより介護の実践力の向上を図る。2年次は特にチームケア・感染防止・医療的ケアを学び、併せて国家試験対策も実施する。介護福祉士として医療職・福祉職など多職種と協働・連携する力を養う。
成績評価の基準・方法
(概要) 評価指標は定期試験、平常点(出欠席、レポート、受講態度等)である。点数によってA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)の4段階で評価をしている。2期制を導入しており、前後期それぞれ定期試験実施後、各科目の試験結果に平常点を加算して評点を算出し、学期ごとに評価をしている。単位認定は年度末の判定会議の議を経て認定している。
卒業・進級の認定基準
(概要) 進級の認定は、学年に定める履修すべき単位を全て修得し、かつ、年間の学費等を全て納入した者で、進級判定会議の議を経て認定する。卒業の認定は、学則に定める全単位修得を前提とし、卒業試験に合格し、卒業判定会議の議を経て認定する。
学修支援等
(概要) クラス担任制を用いている。全入学生を対象に入学前学習を実施し、学修のフォローに努めている。また、入学後はスモールグループによる学修の支援やオフィスアワーを設け、学生が教員に対し、学業の相談がしやすい環境を整備している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
25人 (100%)	0人 (0%)	25人 (100%)	0人 (0%)
<p>（主な就職、業界等） 特別養護老人ホーム、介護老人保健施設等の介護福祉士国家資格を活かすことができる業界へ就職する。</p>			
<p>（就職指導内容） 卒業年次の4月にはハローワーク担当者による就活セミナーを、8月には同じくハローワークによるセミナーと本校主催の就職説明会(例年100施設程度の参加)を実施し、就職指導・支援をしている。また、就職相談室(ハローワークへ無料職業紹介所として届け出済)を設け、様々な情報を公開するとともに、必要に応じて随時、個別相談を行うことにより、個々の学生の意向に沿った就職支援を実施している。</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等）） 介護福祉士国家資格、社会福祉主事任用資格、福祉住環境コーディネーター等</p>			
<p>（備考）（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
44人	0人	0%
<p>（中途退学の主な理由）</p>		
<p>（中退防止・中退者支援のための取組） 全学生を対象に、出席率等を定期的に確認している。その中で休みがちな学生に対しては指導を行なっている。特に、長期欠席者に関しては、学生及び保護者並びに教員2名による3者面談を実施し、理由を把握しながら、学生本人の意思を尊重し、保護者も同意したうえで休学を勧め、退学の防止を図っている。また、必要に応じて随時スクールソーシャルワーカーによるカウンセリングを行なっている。さらに、本人からの希望があれば、再入学や転科等で退学の防止を図っている。</p>		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
医療	医療専門課程	メディカルスポーツ 柔道整復学科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	112 単位	単位時間 83/単位	単位時間 7/単位	単位時間 22/単位	単位時間 0/単位	単位時間 0/単位
			112 単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
72人	50人	0人	6人	13人	19人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 3年課程の中で、1年次に体の構造や働き、包帯・テーピング固定と軟部組織損傷の基礎を学び、2年次に怪我や病気について学び施術方法を学習し、3年次には総合的な評価から治癒までの過程をトータル的に理解する学習をし、国家試験対策を行いながら、整復・固定の技術を高め習得できるようなカリキュラム設定を行っている。また、医療職・福祉職など多職種と協働・連携する力を養い、多様な分野で活躍できる柔道整復師の育成を目指している。
成績評価の基準・方法
(概要) 評価指標は定期試験、平常点(出欠席、レポート、受講態度等)である。点数によってA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)の4段階で評価をしている。2期制を導入しており、前後期それぞれ定期試験実施後、各科目の試験結果に平常点を加算して評点を算出し、学期ごとに評価をしている。単位認定は年度末の判定会議の議を経て認定している。
卒業・進級の認定基準
(概要) 進級の認定は、学年に定める履修すべき単位を全て修得し、かつ、年間の学費等を全て納入した者で、進級判定会議の議を経て認定する。卒業の認定は、学則に定める全単位修得を前提とし、卒業試験に合格(認定実技審査に合格することも含む)し、卒業判定会議の議を経て認定する。
学修支援等
(概要) クラス担任制を用いている。全入学生を対象に入学前学習を実施し、学修のフォローに努めている。また、入学後はスモールグループによる学修の支援やオフィスアワーを設け、学生が教員に対し、学業の相談がしやすい環境を整備している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
22人 (100%)	0人 (0%)	7人 (31.8%)	15人 (68.2%)
<p>（主な就職、業界等） 接骨院、病院、医院、通所介護事業所等の柔道整復師国家資格を活かすことができる業界への就職である。</p>			
<p>（就職指導内容） 卒業年次の4月にはハローワーク担当者による就活セミナーを、8月には同じくハローワークによるセミナーと本校主催の他学科合同の就職説明会を実施し、就職指導・支援している。また、就職相談室（ハローワークへ無料職業紹介所として届け出済）を設け、様々な情報を公開するとともに、必要に応じて随時、個別面談を行うことにより、個々の学生の意向に沿った就職支援を実施している。</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等）） 柔道整復師国家資格、機能訓練指導員</p>			
<p>（備考）（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
66人	7人	10.6%
<p>（中途退学の主な理由） 学業成績不振による資格取得への意欲低下</p>		
<p>（中退防止・中退者支援のための取組） 全学生を対象に、出席率等を定期的に確認している。また、科目担当教員との情報共有を密に実施し、担任を中心とした学業面の補完（補習）を実施し、学生一人ひとりのペースに合わせた学習展開を支援している。さらに、本人からの進路変更の希望があれば、再入学や転科等で退学の防止を図っている。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	作業療法学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	130 単位時間/単位	単位時間 80/単位	単位時間 24/単位	単位時間 26/単位	単位時間 0/単位	単位時間 0/単位
			130 単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
96人	64人	0人	6人	20人	26人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 4年課程の中で、カリキュラムは全体の6割を実技・実習・演習科目、4割を座学講義として実践力の育成を重視した構成としている。特に実習時間は世界作業療法連盟の定める1,000時間以上として世界標準を担保している。 1年次にリハビリテーションの理念と役割、2年次は基礎・臨床医学科目と専門基礎科目を中心に医療職としての基礎的土台を固め、3年時には即戦力となる知識・技術を育成する。4年次は臨地実習を中心に、専門科目で治療手技や介入、マネジメントを中心に授業展開、同時に国家試験対策にも取り組んでいる。
成績評価の基準・方法
(概要) 評価指標は定期試験、平常点(出欠席、レポート、受講態度等)である。点数によってA(80点以上)・B(70点以上80点未満)・C(60点以上70点未満)・D(60点未満)の4段階で評価をしている。2期制を導入しており、前後期それぞれ定期試験実施後、各科目の試験結果に平常点を加算して評点を算出し、学期ごとに評価をしている。単位認定は年度末の判定会議の議を経て認定している。
卒業・進級の認定基準
(概要) 進級の認定は、学年に定める履修すべき単位を全て修得し、かつ、年間の学費等を全て納入した者で、進級判定会議の議を経て認定する。 卒業の認定は、学則に定める全単位修得を前提とし、卒業試験に合格し、卒業判定会議の議を経て認定する。
学修支援等
(概要) クラス担任制を用いている。全入学生を対象に入学前学習を実施し、学修のフォローに努めている。また、入学後はスモールグループによる学修の支援やオフィスアワーを設け、学生が教員に対し、学業の相談がしやすい環境を整備している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
28人 (100%)	0人 (0%)	21人 (75%)	7人 (25%)
<p>（主な就職、業界等） 病院（総合病院、精神科病院）、介護老人保健施設等の作業療法士国家資格を活かすことのできる業界への就職である。</p>			
<p>（就職指導内容） 卒業年次の4月にはハローワーク担当者による就活セミナーを、8月には同じくハローワークによるセミナーと本校主催の就職説明会（例年100施設程度の参加）を実施し、就職指導・支援している。また、就職相談室（ハローワークへ無料職業紹介所として届け出済）を設け、様々な情報を公開するとともに、必要に応じて随時、個別面談を行うことにより、個々の学生の意向に沿った就職支援を実施している。</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等）） 作業療法士国家資格</p>			
<p>（備考）（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
82人	3人	3.7%
<p>（中途退学の主な理由） メンタル面の不調、学業不振</p>		
<p>（中退防止・中退者支援のための取組） 全学生を対象に、出席率等を定期的に確認している。その中で休みがちな学生に対しては指導を行なっている。特に、長期欠席者に関しては、学生及び保護者並びに教員2名による3者面談を実施し、理由を把握しながら、学生本人の意思を尊重し、保護者も同意したうえで休学を勧め、退学の防止を図っている。また、必要に応じて随時スクールソーシャルワーカーによるカウンセリングを行なっている。さらに、本人からの希望があれば、再入学や転科等で退学の防止を図っている。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	理学療法学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	124 単位	単位時間 76/単位	単位時間 22/単位	単位時間 26/単位	単位時間 0/単位	単位時間 0/単位
			124 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
264 人		191 人	0 人	8 人	17 人	25 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>4年課程の中で、1年次には一般教養科目としての基礎分野のほか、専門分野の演習科目も配置している。また、社会人に求められる協調性やコミュニケーション能力向上を図るための科目も配置している。2年次には専門基礎分野の臨床医学の科目が中心に配置している。3年次は専門分野を中心に科目配置し、評価実習（臨地実習）を含めて実践力の育成を図る。また、チーム医療のための科目も配置している。4年次には臨地実習を2回実施し、今まで学習した知識・技術を統合し応用する能力を身に付ける。そのほか、国家試験対策も実施している。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要）</p> <p>評価指標は定期試験、平常点（出欠席、レポート、受講態度等）である。点数によって A(80 点以上)・B(70 点以上 80 点未満)・C(60 点以上 70 点未満)・D(60 点未満)の 4 段階で評価をしている。2 期制を導入しており、前後期それぞれ定期試験実施後、各科目の試験結果に平常点を加算して評点を算出し、学期ごとに評価をしている。単位認定は年度末の判定会議の議を経て認定している。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要）</p> <p>進級の認定は、(年間の学費等を全て納入した者で)学年に定める履修すべき単位を全て修得している場合、進級判定会議の議を経て認定する。</p> <p>卒業の認定は、学則に定める全単位修得を前提とし、卒業試験に合格し、卒業判定会議の議を経て認定する。</p>
<p>学修支援等</p> <p>（概要）</p> <p>クラス担任制を用いている。全入学生を対象に入学前学習を実施し、学修のフォローに努めている。また、入学後はスモールグループによる学修の支援やオフィスアワーを設け、学生が教員に対し、学業の相談がしやすい環境を整備している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
43人 (100%)	0人 (0%)	37人 (86.0%)	6人 (14.0%)
<p>（主な就職、業界等） 病院、医院、介護老人保健施設等の理学療法士国家資格を活かすことができる業界への就職である。</p>			
<p>（就職指導内容） 卒業年次の4月にはハローワーク担当者による就活セミナーを、8月には同じくハローワークによるセミナーと本校主催の就職説明会（例年100施設程度の参加）を実施し、就職指導・支援している。また、就職相談室（ハローワークへ無料職業紹介所として届け出済）を設け、様々な情報を公開するとともに、必要に応じて随時、個別面談を行うことにより、個々の学生の意向に沿った就職支援を実施している。</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等）） 理学療法士国家資格</p>			
<p>（備考）（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
207人	12人	5.8%
<p>（中途退学の主な理由） 学業不振、学校生活不適應等</p>		
<p>（中退防止・中退者支援のための取組） 全学生を対象に、出席率等を定期的に確認している。その中で休みがちな学生に対しては指導を行なっている。特に、長期欠席者に関しては、学生及び保護者並びに教員2名による3者面談を実施し、理由を把握しながら、学生本人の意思を尊重し、保護者も同意したうえで休学を勧め、退学の防止を図っている。また、必要に応じて随時スクールソーシャルワーカーによるカウンセリングを行なっている。さらに、本人からの希望があれば、再入学や転科等で退学の防止を図っている。</p>		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
教育・社会福祉		教育・社会福祉 専門課程	国際日本語学科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	31 単位	30 単位	24 単位	0 単位	0 単位	0 単位
			54 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
10 人		5 人	5 人	2 人	1 人	3 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）教育課程の編成に関する基本的な考え方 1年課程の中の基礎科目の進め方、日本で活躍ができるために必要な社会人に求められる基礎力を養う。専門科目では対人援助職として、主体的に行動できる力を身につける。国際人として、多様性を受け入れ柔軟に行動できる力を養う。
成績評価の基準・方法
（概要）評価の指標は定期試験、平均点（出欠、レポート、受講態度）である。点数により A（80点以上）・B（70点以上80点未満）・C（60点以上70点未満）・D（60点未満）の4段階で評価を行う。前期、後期の定期試験後、各科目の試験の結果定常点を加算して評点を算出し学期ごとの評価をする。単位・卒業認定は年度末の判定会議を経て認定を行う。
卒業・進級の認定基準
（概要）卒業の認定は学則に定める全単位習得を前提とし、各科目の試験の評点の結果をもとに年度末の判定会議を経て認定を行う。
学修支援等
（概要）クラスの担任制を用いて、全入学生を対象に学力テストを実施し、学習のフォローに努める。また、入学後は、グループや個人による補習を行い学習支援や学生が教員に対して、学務・教務面で相談しやすいように教員が学生に対する時間を作る環境と場所の整備を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
12人 (85%)	9人 (75%)	3人 (25%)	0人 (0%)
<p>（主な進学先・就職、業界等）</p> <p>進学先については、ビジネス系・ホテル系の進学である。 就職については、ホテルおよび旅館への就職である。</p> <p>（就職指導内容）</p> <p>ガイダンスを行い、自分が目指す進路について自分で選択するように指導を行っている。 また、就職については、人材派遣会社との面接などを実施や様々な情報を公開するとともに、必要に応じて随時、個別面談を行うことにより、個々の学生の意向に沿った就職支援を実施している。</p> <p>（主な学修成果（資格・検定等））</p> <p>介護職員初任者研修、救命救急講習、JLPT（日本語能力試験）</p> <p>（備考）（任意記載事項）</p> <p>*令和6年度2名留年者となった。</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
14人	0人	0%
<p>（中途退学の主な理由）</p> <p>（中退防止・中退者支援のための取組）</p> <p>全学生を対象に、出席状況の確認を定期的に行い、休みがちな学生に対しては、個別面談を行いながら生活指導を行っている。留学生は、在留期限更新のための出席率80%以上が求められている。また、進学において学校により多少違いはあるが、出席状況がA0入試で95%以上、または90%以上が求められる。学生指導の中で出席等や学習面について指導を徹底しなければならない。学生本人の将来ビジョンを教員、学生共に相互確認を行い、学習状況や出席状況を把握し、意識をした学生指導に取り組んでいる。</p>		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
こども未来 学科	100,000 円	600,000 円	300,000 円	実験実習費、施設設備費
介護福祉学科	100,000 円	600,000 円	300,000 円	実験実習費、施設設備費
メディカル スポーツ柔道 整復学科	150,000 円	800,000 円	450,000 円	実験実習費、施設設備費
作業療法学科	200,000 円	1,000,000 円	700,000 円	実験実習費、施設設備費
理学療法学科	200,000 円	1,000,000 円	700,000 円	実験実習費、施設設備費
国際日本語学科	50,000 円	600,000 円	0 円	
修学支援 (任意記載事項)				
学校法人こおりやま東都学園奨学金制度を設けており、学業成績及び学習態度等が優秀な学生に対し、奨学金を給付している。また、推薦入学試験制度等、一部の入学試験制度においては、学費の減免を施している。				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.k-tohto.ac.jp/basic_information/		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
学校関係者評価の委員について、委員定数は17名であり、選出区分は企業等委員及び学識者並びに卒業生である。その評価項目は教育理念・目標及び学校運営並びに教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生の受入れ募集、財務、法令等の遵守、社会貢献・地域貢献、国際交流の11項目である。これら実践的な職業教育に係る活動等を評価し、改善及び支援等を行うことにより、学生等が関係業界等のニーズを踏まえた質の高い職業教育を享受できるよう、学校運営の改善と専修学校の発展をめざした「自己評価」及び「学校評価」を行なっている。また、自己評価の結果を学校関係者評価委員会に報告し、意見交換及び質疑応答を重ね、教育活動並びに学校運営に活用するとともに、これらの質の保証と向上に継続的に努めている。例年、6月から7月にかけて委員会を開催し、学校長を責任者として評価結果及び活用方法等について公開している。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
松尾病院	R7.5.1～R8.3.31	企業等委員
船引クリニック	R7.5.1～R8.3.31	卒業生、企業等委員
船引クリニック	R7.5.1～R8.3.31	卒業生
呉羽総合病院	R7.5.1～R8.3.31	企業等委員
竹田総合病院	R7.5.1～R8.3.31	企業等委員

栴記念病院	R7. 5. 1～R8. 3. 31	企業等委員
琉球リハビリテーション学院	R7. 5. 1～R8. 3. 31	卒業生
福島学院大学	R7. 5. 1～R8. 3. 31	学識者
社会福祉法人青葉学園	R7. 5. 1～R8. 3. 31	企業等委員
特別養護老人ホームなごみの郷	R7. 5. 1～R8. 3. 31	企業等委員
特別養護老人ホーム寿恵園	R7. 5. 1～R8. 3. 31	企業等委員
グループホームあいの里	R7. 5. 1～R8. 3. 31	卒業生、企業等委員
特別養護老人ホームうねめの里	R7. 5. 1～R8. 3. 31	企業等委員
英語留学村 くらぶち英語村	R7. 5. 1～R8. 3. 31	企業等委員
(株)ジャパン国試合格	R7. 5. 1～R8. 3. 31	企業等委員
(株)テン十字グループ	R7. 5. 1～R8. 3. 31	企業等委員
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.k-tohto.ac.jp/basic_information/		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		
一般社団法人リハビリテーション教育評価機構 (受審年月 : R5. 4 認証)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.k-tohto.ac.jp
--